

■ 第4期中期目標・中期計画に係る自己点検・評価について

- ・ 「国立大学法人の第3期中期目標期間終了時における組織及び業務全般の見直しについて（令和3年7月2日 文部科学大臣決定）」において、毎年度の業務実績に係る評価を廃止することに併せて、国立大学法人中期目標大綱及びそれに基づく各法人の中期目標・中期計画に基づいて徹底した自己点検・評価の実施及び公表が求められている。
- ・ そのため、国立大学法人法第31条の2に規定する評価に向けて、令和4事業年度から自己点検・評価を行うこととした。

■ 令和7事業年度の自己点検・評価について

- ・ 令和7事業年度の「目標達成のための数値目標等と措置」の進捗状況をもとに、自己点検・評価を行った結果、中期計画全38件中、「iii：達成水準を大きく上回っている」が15件、「ii：達成水準を満たしている」が22件、「i：達成水準を満たしていない」が1件となった。「i」となった中期計画【26】「新規特定臨床研究等の実施件数」については、令和7事業年度4件以上実施の目標に対し2件であったが、実施前の支援を行っている研究が5件あり、令和8事業年度以降、順次実施する予定である。

項 目	進 捗
I - 1 社会との共創	iii：達成水準を大きく上回っている 1件 ii：達成水準を満たしている 2件
I - 2 教育	iii：達成水準を大きく上回っている 2件 ii：達成水準を満たしている 5件
I - 3 研究	iii：達成水準を大きく上回っている 5件 ii：達成水準を満たしている 4件
I - 4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項	iii：達成水準を大きく上回っている 3件 ii：達成水準を満たしている 3件 i：達成水準を満たしていない 1件
II 業務運営の改善及び効率化に関する事項	iii：達成水準を大きく上回っている 2件 ii：達成水準を満たしている 5件
III 財務内容の改善に関する事項	iii：達成水準を大きく上回っている 1件 ii：達成水準を満たしている 1件
IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項	iii：達成水準を大きく上回っている 1件 ii：達成水準を満たしている 1件
V その他業務運営に関する重要事項	ii：達成水準を満たしている 1件
合 計	iii：達成水準を大きく上回っている 15件 (14件) ii：達成水準を満たしている 22件 (24件) i：達成水準を満たしていない 1件 (0件)

※括弧内の件数は、令和6事業年度の進捗を示す。

■ 「iii」と判断した主な事項の状況（★印は令和7事業年度から新たに進捗「iii」と判断した中期計画を示す）

1 社会との共創

- ◆ DX化の仕組み構築として、スマホを活用した顔バイタルサインの導入を新規項目として検討中。また、**メディアで多く取り上げられたことにより、QOL健診の実施件数は目標を上回って増加。**【中期計画03】

2 教育

- ◆ 2つの講義室（定員計178人）を、オンライン授業対応の教室として整備。整備計画の前倒しにより、**令和7年度に総合教育棟の計画した全講義室の整備が完了。**また、各学部でも教室環境の整備を進め、固定式座席2室（定員168人）にPC電源コンセントを設置。【中期計画04】
- ◆ 大学院横断型副専攻プログラムとして、「**研究開発マネジメントのための汎用的スキル育成プログラム**」を開設し、受講科目に「特許化戦略特論」「標準化戦略特論」を組み込み、**研究倫理教育等を充実。**【★中期計画05】

3 研究

- ◆ 重点分野である物質科学、宇宙物理学、地球科学、分子生物学に関する基礎研究の推進については、令和7年度の当該分野の研究業績数は251件で、**第3期の年間水準175件を上回り、伸び率43.4%と目標値（5%増）を大きく上回る結果。**【中期計画11】
- ◆ 次世代の看板となる研究創出を目的に「弘前大学次世代重点研究」を公募し、新規2件を採択。また、令和7年度から「Well-being異分野融合型研究プログラム」を開始し、10件を採択。**累計でも目標件数を上回り、多様な研究分野のプロジェクトが全学的に推進。**【★中期計画12】

4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

- ◆ COI-NEXT多拠点統合データベース運営委員会を開催し、本学含め参画大学での**データ利活用が順調に進展。**【中期計画21】

5 業務運営の改善及び効率化に関する事項

- ◆ 令和6年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」採択を受け、研究中核拠点として**Well-being総合研究棟を共同利用スペース化。**【★中期計画33】

6 財務内容の改善に関する事項

- ◆ 資金運用の取組として、令和7年度は寄附金執行の増加により余裕金がないと判断し、新たな社債購入を見送り。一方、**令和4年度からの平均運用収益は25,467千円（運用収益比率1.306%）で、目標（0.701%）を大きく上回る結果。**【中期計画34】

7 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

- ◆ オウンドメディアや大学プレスセンターを活用し、**教育・研究・社会貢献の情報発信と弘大ブランドの発信・浸透・定着させるため、**継続してスマートフォン閲覧を想定し、ポスター・動画等を用いて多様な媒体で広報活動を実施。また、学生アンケートやHIROMAGA保護者読者アンケートを踏まえ、**学生の広報参加を意識した情報発信を継続。**【★中期計画37】